

「目には見えない福井らしさ」

福井県で教職に就き、20数年。生まれ育ったこの地で教職を選んで良かったと感じることについて触れてみたい。

まずはなんと言っても子どもたちの質の高さ。その質の高さとは、学力・体力トップクラスの質ではなく、それらを支える「子ども力」が高いということであり、これこそが福井県の強みであると感じる。好きなことにとことん熱中する力、わからないことをわからないと言える力、仲間とうまくやっけていこうとする力。素直さ、素朴さ、柔軟さ、吸収力の高さ。他県での教職経験がないため比較することはできないが、子どもたちと学校生活を送る中で、日々その「子ども力」に支えられ、助けられている。

次に教員同士のつながりが強いと感じる場面が多い。常に自分のまわりに尊敬すべき同僚がいて、たくさんの方があって何とか歩いてこられていると感じる。0ベースのスタートからここまで、赴任校の職員室すべてが温かい雰囲気だった。学年会、教科会、各部会、それぞれに教員同士のつながりがあり、何でも相談し合える雰囲気は、決して一人で苦しむことがない、ということの表れだろう。先輩は後輩を助け、後輩は先輩に教わる。得意な人は苦手な人のフォローをし、適材適所で校務をまわしていく。自分さえ良ければいい、という教員はなく、常に協働し、助け合う。福井県の教職員を表現するのに、一枚岩、団結、チーム一丸、などの言葉がぴったりくると感じられるのは私だけではないはずである。

私が、学校でふだん感じている当たり前は、きっと当たり前ではなく、「福井らしさ」なのだと思う。これまで受け継がれてきた目には見えない当たり前を、今後も大切にしたいと強く思う。